

報告事項ス

本高弓ノ木遺跡出土穂摘具について

本高弓ノ木遺跡出土穂摘具について、別紙のとおり報告します。

平成21年4月23日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

# 本高弓ノ木遺跡出土穂摘具<sup>ほづみく</sup>について

文 化 財 課

## 1 経緯

山陰道（一般国道9号）鳥取西道路の改良工事に伴う「本高弓ノ木遺跡<sup>もとだかゆみの きいせき</sup>」の発掘調査において、古墳時代中期（今から約1600年前）の砂の層から、木製の台に鉄製の刃が差し込まれた、ほぼ完全な形を残す「穂摘具<sup>ほづみく</sup>」が国内で初めて出土した。

穂摘具：稲穂などの刈りとり用に用いた収穫のための農具。

調査期間：平成20年9月24日～12月10日

## 2 穂摘具の特徴等

大きさ	木製の台：長さ10.4cm、幅4.1cm、厚さ0.8cm
	鉄製の刃：長さ7.2cm、幅1.7cm、厚さ0.1cm
特徴	長方形の木製の台の下辺の溝に鉄製の刃を差し込んでいる。木製の台、鉄製の刃とも、ほぼ完全な形を残している。木製の台には、使用の際に紐 <sup>ひも</sup> を通した紐孔 <sup>ひもあな</sup> が2個ある。
時期	古墳時代中期（5世紀）

この穂摘具のほかにも、平行四辺形の木製の台に鉄製の刃が一部残る、古墳時代前期（4世紀）の穂摘具が1点出土している。

## 3 発見の意義

木製の台に鉄製の刃がさしこまれたほぼ完全な形を残す穂摘具は国内で初の出土例であり、この種類の穂摘具の全体像を明らかにすることができる資料である。

木製の台の詳細な観察から、この穂摘具の使用方法を復元することが可能となった。

鉄製の刃がさしこまれた2種類の穂摘具が同一遺跡で出土した事例は国内初であり、穂摘具の変遷を考える上で貴重な発見となった。



穂摘具（古墳時代中期）



穂摘具の使用方法